

令和5年度

地域魅力化応援隊員業務報告書

<総括表>

地域魅力化応援隊員が

魅力ある地域づくりを応援します



益田市政策企画局連携のまちづくり推進課

もくじ

(1) 令和5年度地域魅力化応援隊員名簿	P. 2
(2) 益田地区	P. 3～P. 5
(3) 吉田地区	P. 6～P. 10
(4) 高津地区	P. 11～P. 14
(5) 安田地区	P. 15～P. 18
(6) 鎌手地区	P. 19～P. 22
(7) 種地区	P. 23～P. 26
(8) 北仙道地区	－ (配置なし)
(9) 豊川地区	P. 27～P. 30
(10) 真砂地区	P. 31～P. 34
(11) 西益田地区	P. 35～P. 38
(12) 二条地区	P. 39～P. 41
(13) 美濃地区	P. 42～P. 43
(14) 小野地区	P. 44～P. 47
(15) 中西地区	－ (配置なし)
(16) 東仙道地区	P. 48～P. 50
(17) 都茂地区	－ (配置なし)
(18) 二川地区	－ (配置なし)
(19) 匹見上地区	P. 51～P. 52
(20) 匹見下地区	P. 53
(21) 道川地区	－ (配置なし)
(22) 地域魅力化応援隊員事業実施要綱	P. 54～P. 55

【地域魅力化応援隊員とは】

総務省が制度化している「集落支援員制度（特別交付税措置）」の益田市版で、地域の課題整理や住民同士の話し合いの促進等により、住民自治機能の強化を支援します。地域魅力化応援隊員は、配置の希望があった地区に配置しています。

令和5年度地域魅力化応援隊員名簿

No.	配置先	活動地区	氏名	採用年月
1	益田公民館	益田地区	石川 祐子	令和4年 4月
2	吉田公民館	吉田地区	石田 令子	平成30年 4月
3	高津公民館	高津地区	梅津 梨紗	平成29年 4月
4	安田公民館	安田地区	尼子 達夫	平成27年 5月
5	鎌手公民館	鎌手地区	佐々木 浩臣	令和4年 7月
6	種公民館	種地区	有田 学	令和3年 4月
7	豊川公民館	豊川地区	岡崎 友臣	平成26年 4月
8	真砂公民館	真砂地区	石田 江里加	令和5年 11月
9	豊田・西益田公民館	西益田地区	大畑 咲絵	令和元年 6月
10	二条公民館	二条地区	宅野 証平	令和5年 4月
11	美濃公民館	美濃地区	大庭 真弓	令和4年 1月
12	小野公民館	小野地区	宮内 英之	平成30年 4月
13	東仙道公民館	東仙道地区	青戸 美奈子	平成28年 4月
14	匹見上公民館	匹見上地区	檜谷 望	令和3年 4月
15	匹見下公民館	匹見下地区	寺西 泰一	令和4年 9月

計15名

益田地区

地域魅力化応援隊員 氏名 石川 祐子

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

益田公民館

2. 配置年月

令和4年4月から



3. 活動の概要

①活動の内容

〈全体〉

- ・役員会 計10回（見込み含む）
- ・定期総会開催、資料作成
- ・監査会



〈歴史部会〉

- ・歴史部会会議 計4回（見込み含む）
- ・第3回日本遺産スタンプラリー



〈ふれあい部会〉

- ・ふれあい部会会議 計2回（見込み含む）
- ・ホームページ講習会
- ・益小プロジェクト



〈安心安全部会〉

- ・安心安全部会会議 計3回（見込み含む）

〈安心安全・ふれあい部会合同〉

- ・安心安全・ふれあい合同部会 計2回
- ・S58災害イベント



②活動の成果及び効果

安心安全部会では、ふれあい部会と協力し今年で昭和58年の豪雨災害から40年という節目に「S58災害イベント」を企画、災害の映像・写真を展示した〔展示〕、〔避難所体験〕、〔救急体験〕、〔防災説明〕の4つのブースを設け益田東中学校体育館で実施した。当時の事を知らない人も増えてきているので、住民の皆さんに災害の恐ろしさや危機意識を持ってもらえるようなイベントになったのではないかと思います。これを一つのきっかけとして自主防災組織に結びついてくれればと思っています。

歴史部会では、昨年、一昨年に引き続き「第3回日本遺産スタンプラリー」を東中学校と協働で開催した。当日は10月末とは思えない程暑かったが、秋晴れの中スタートし、中学校1年生全員が各ポイントでガイドを行った。夏休み前からポスター作りやガイドの勉強・練習もしてきている。施設や地域の皆さん、他部会員の協力もあり、無事に終える事が出来た。アンケート結果も概ね良い評価を頂いている。

ふれあい部会では、益小プロジェクトを部会の事業として取り組んでおり、今年度は〔歴史〕、〔環境〕、〔祭り〕、〔料理〕の4つのチームに分かれ、1つのイベントを実施。地域の大人の知恵や力を借りながら、子供たちが「益田を幸せにしたい」という思いを一緒に具体化していく事が出来た。

4. 残された課題と今後の提案

今年度は地区内に向けての周知などが不十分だった事もあり、まだまだ認知度が低く、協議会に関わっている人もごく一部の人だけという現状となっている。伝統や地域活動への担い手不足などの問題も含めて、若い世代が関わりやすい事業や、益田地区独自の事業など考えていく必要がある。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は公民館が元島田家へ移転し、後片付けや館長職が長期不在だったこともあり主事二人と協力しながら、どうにかやって来れた1年だったと思う。

来年度はまちづくりプランの改定など組織改革の年になるので、色々な所から話を聞いたりしながら、益田地区ではどの様にするのが良いか探っていきたい。

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

吉田地区

2. 配置年月

平成30年4月

3. 活動の概要

① 活動の内容

- ・ 地域自治組織の事業及び組織運営の支援
- ・ 地区住民等と連携して地域課題を整理し、情報の共有化を図り、住民自治機能の充実や機能を強化する。
- ・ まちづくりプラン等の策定支援
- ・ 公民館との連携、各種研修会に参加

② 活動の成果及び効果

(1) 総会、役員会、各部会議の開催を支援

- ・ 令和5年度総会資料作成および会場設営
- ・ 令和5年度事業実績報告書作成の支援
- ・ 令和6年度活動計画策定の支援

(2) 安心安全なまちづくり部会防災班の活動を支援

- ・ 第1回吉田地区防災協議会（6月10日）

防災研修会「内水氾濫と避難」を開催。20自治会より防災担当者25名が参加。各担当課より吉田地区の治水対策について状況を聞き、質疑応答、意見交換を行った。具体的には以下のとおり。

県土木整備事務所「益田川水系の治水対策について」

市水道課「中島の内水対策について」

市都市整備課「吉田の排水路」

市危機管理課「避難所について」



- ・ 4自治会合同防災訓練（6月18日）

吉田小学校周辺の4自治会（中吉田・太平町・中島・あけぼの西町）合同の防災訓練を開催。水害を想定した避難訓練で、各自治会長による告知放送を合図に避難を開始。約140名が吉田小学校校庭に避難し、その後、火災訓練（煙体験ハウス、水消火器）、地震体験（起震車）を行った



・第2回吉田地区防災協議会（11月18日）

ワークショップ「図上訓練」を開催し、15自治会より防災担当者22名が参加した。高津川の氾濫を想定し、雨量と時間が変化するなか、自主防災組織は何をするのかをグループに分かれて考えた。その後、全体共有と意見交換を行った。



(3) 安心安全なまちづくり部会安全班の活動を支援

- ・登下校見守り活動普及運動「吉田の見守りEye」を、5月と10月の2回開催。自治会、学校、PTA、児童民生委員、交通安全協議会などから有志250名以上が参加した。その際に気が付いた危険個所の情報をまとめ、改善の要望を所管へ提出した。



(4) 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会にぎわい班の活動を支援

・チャレンジフェス！開催（10月22日）

昨年に続き、吉田小学校で開催。子どもたちがチャレンジしていることを発表する機会を与えたいとにぎわい班が企画。子どもたちは演技発表だけでなく、ポスター制作から司会、告知放送まで担った。出演者を含め74名が参加。サッカー、音楽演奏、ダンスの発表、ヨシダリーダーズ（仮）のアイスブレイクがあった。



・ヨシダリーダーズ（仮）の結成と活動支援

吉田地区の小中高生による地域活動団体の結成（7月）とその後の活動を支援。「まずやってみよう」「相手の考えを尊重しよう」「自分で考え自分で決め

よう」「楽しもう」を合言葉に活動している。雪舟さんまつり（10/1）への出店や、チャレンジフェスでアイスブレイクを担当した。

(5) 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会歴史文化班の活動を支援

・歴史茶話会開催（毎月）

昨年に引き続き「歴史茶話会」を開催。今年は吉田地区に伝わる民俗芸能をテーマとし、それぞれの団体役員から活動の様子を聞いた。3月には集大成として「民俗芸能祭」を開催し、実演していただいた。

また、12月から3月は、益田市出身の考古学者の先生にご登壇いただき、それぞれが得意とされる分野についてご講演いただいた。



(6) 健康なまちづくり部会の活動を支援

・吉田の町再発見!!健康ウォーキング（6月4日）

住民同士の交流と体力向上を目指して健康ウォーキングを開催。

春：雪舟山水郷史跡名所めぐり3kmコース（6月4日）17名参加

秋：雨天のため中止



・健康教室「リズム遊び」（7月9日）、「けんこう体操」（12月2日）

「リズム遊び」は、エレクトーンや打楽器のリズムに合わせて身体を動かし、楽しみながら健康増進を目指した。参加者は23名。

「自分の脚で歩き続けるためのけんこう体操」は、理学療法士でもある講師が、立ち方、歩き方、スクワットの方法、タオルを使った体操を指導し、18名が参加した。



4. 残された課題と今後の提案

① 組織運営

- ・本年度は役員・運営委員の全員が参加できる全体会を2回（4月・12月）開催。部会の枠を越えて意見交換を行った。グループワークの後に全体共有を行い、出席者は自治組織全体について考えることができた。このような意見交換の場を増やして次世代の役員を育成したい。
- ・自治会長からの意見を聞く機会はあるが、その他住民の考えを聞く機会が少ない。多世代の意見を反映できる工夫（アンケートや意見交換の場づくり）をするよう提案したい。
- ・各部会の活動支援を優先したため、事務局が部会事業に介入しすぎるとともに、事務局の仕事がおろそかになったと思う。3年が過ぎ、各部会は自立して活動できるようになったので、今後は事務局の役割を充実させたい。

② 安心安全なまちづくり部会

- ・防災班運営委員会では活発な意見交換が行われている。しかし課題の重要さに比して運営委員の数が少ないこと、女性の運営委員がいないことは検討すべきと思う。「防災班」はすべきことは多いが、遅々として進まない。課題を整理し、課題ごとのプロジェクトを立ち上げ、同時進行することを提案したい。
- ・安全班では、通学路の危険箇所とその改善について、行政や警察署に要望書を提出してきた。その結果グリーンベルトの設置や、消えかかっていた横断歩道の塗り直しが行われた。この活動を引き続き行うとともに活動の幅を広げて、高齢者の安全な生活についても検討していくことを提案したい。

③ 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会

- ・にぎわい班に、子どもたちを育成する活動（ヨシダリーダーズ（仮））が加わった。その結果、この部会では、子どもの育成、歴史文化、にぎわいづくりが並行して議論されることとなった。現在、委員の興味は、子どもに関することと、歴史文化に関することに別れており、にぎわいづくりには向かっていないようだ。部会名と実際の活動内容にずれがあるので、部会名、班名を、自分たちが目指すものと一致させることを提案したい。

④ 健康なまちづくり部会

- ・健康なまちづくり部会の活動は「健康ますだ市21」や各自治会の健康ウォーキング等の活動と重なる部分が多い。吉田地区自治協議会としての「健康なまちづくり」とは何かを改めて考えることを提案したい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

この1年間、運営委員さんの「吉田を暮らしやすいまちにしたい」という強い気持ちに押されて活動してきました。

防災班の委員さんは、自治会の防災訓練を手伝い、自治会ごとの研修資料（航空写真）を作成し、雪舟さんまつりでは「煙体験ハウス」で火災の怖さを住民に広めるなど、1年をとおして活動しておられました。

安全班の委員さんは、毎日のように地域の見守り活動をし、警察へ要望を出した横断歩道の塗り替えやグリーンベルトの設置ができているかどうかを確認しておられました。

にぎわい班の委員さんは、雪舟さんまつりに出店するヨシダリーダーズ（仮）の準備を、毎週末手伝っておられました。

歴史文化班の委員さんは、少ないスタッフで毎月「歴史茶話会」を開催しました。

健康部会の委員さんは、事前にウォーキングコースの危険個所を確認し、健康教室の講師先生と何度も打ち合わせをしておられました。

そして会長や部長は、たびたび事務所に集まり、事務局長と組織運営について話合われていました。

私は吉田地区自治協議会の皆さんと一緒に活動できて、1年間で充実したものになりました。これからも運営委員や住民の皆さんと協力して地域づくりに参加していきたいと思います。また、その活動が楽しく、どんどん仲間が増えていくように努めたいと思います。

地域魅力化応援隊員 氏名 梅津 梨紗

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

高津公民館

2. 配置年月

平成29年4月

3. 活動の概要

① 活動の内容

<全体として>

- ・会の方針である「目の前の課題へ、出来る事から」具体的に取り組んだ。
- ・情報発信の手段として会報を発行し地区内へ回覧、高津公民館内に活動の様子を掲示。会議や活動等の様子を随時SNSでも発信、告知端末放送も活用し、情報発信・周知を心がけている。
- ・ありがた市を6月にスタート。毎月第2・第4木曜日に開催しており（変則あり）、少しずつではあるが定着しつつある。



<部会活動>

◆歴史・伝統文化の薫るまち部会

- ・今年度も高津公民館と共催で和太鼓事業を行った。講師には、今福優さん、堂本英里さんを招聘し、今年度はメンバーを変えず、中学生2名、益田高校生3名、明誠高校生1名、計6名で4回の稽古を行った。念願であったホーランエーの船出に活気づけを行うことができ、3年越しの思いが叶った。



- ・今年度のデジタルアーカイブ事業も、益田市と県立大学が結ぶ「共同研究事業」を活用して活動を進めることができた。今年度は、流鏝馬と鶺鴒について撮影をした。高津デジタル博物館へは、編集が終わり次第追加される。



流鏝馬の撮影



鵜飼いの撮影



- ・歴史伝統文化の薫るまち部会・県大・高津公民館でのコラボ企画、夏休みの子どもの居場所づくり[動画をつくろう]を実施。2回の連載企画で、学校で使用しているタブレットを活用し、写真の撮り方、編集の仕方を県大の西嶋先生と大学生に教えてもらった。そのノウハウを活かし講座に参加した子ども達が9月1日に流鏝馬の取材と撮影した。



- ・昨年度デジタルアーカイブした高津地区の郷土芸能「高津餅つき音頭」を後世に伝え残すため、地区内の保育園の年長児を対象に「高津餅つき音頭に親しむ会」を開催。園児が約50名集まった。松葉会から掛け声を教わり、本番では皆で声を出し参加した。地域の方や他団体からの協力もいただけたことで実施することが出来た。



- ・高津公民館、連理松センターとコラボし、連理松センターで小学生を対象とした高津蠟座石臼の歴史についてのお話と、石臼にちなんだろうそく作り（キャンドル）を実施した。翔陽高校生も参加し、小学生と一緒に活動した。



- ・まちづくり活動特別補助金を活用し、柿本人麿の終焉伝承を継承する事業に取り組む。(650余年間人麿の御神像が祀られていた松崎の郷に、そのことを表す

石碑、説明板、想像図の3点を設置) 現在、工事中。令和6年3月末に完成予定。



(R6. 1月末の様子)

◆安全・安心なまち部会

- ・毎日の見守り活動（朝・夕の児童、生徒の登下校）を軸に日々活動を行っている。
- ・小学校からの依頼で校外学習時の活動の見守りに参加
- ・コロナ禍前から取り組んでいた通学路に足型を描く活動を再開。再開と共に、足型を描くのではなく、UV ステイマークを貼る方法で活動を再開した。小学校入口の横断歩道には、高津小学校5・6年生と共に UV ステイマークを貼った。



- ・「ながら見守り」の発信を会報等で随時発信し続けている。
- ・令和3年度に設置した、持石・三里ヶ浜の踏切近くの防犯カメラをとおり、毎日通う児童を対象とした地域が取り組む安全安心なまちづくりについてのお話しをした。



◆つながり部会

- ・7月16日（土）に第2回目となる万葉の里ひとまるフェスタにおける「ひとまるつながりマルシェ」を今年度も開催。フェスタへ約5,000人の来場となった。



② 活動の成果及び効果

- ・今年度から「ありがた市」をスタート。アンケート調査した結果、嬉しい声が沢山あった。その中には要望もあったが、今後も無理なく、出来る範囲で開催していくことが共有された。来場者の集いの場となるよう目指したい。
- ・共同研究事業を活用できたことで、県立大学の西嶋先生の協力をいただい、今年度も高津の宝である「高津流鎬馬」、高津の「鵜飼い」についての撮影が叶った。編集出来次第、「高津デジタル博物館」に追加される。
- ・小学生が西嶋先生と大学生から撮影のコツと動画編集の仕方を教わった。そして、

その小学生が、流鏑馬当日、射手の方へ取材をしながらその撮影を行った。撮影をとおり、高津の歴史に触れ、関わる人たちの想いを知ることができた。

- ・3年前からスタートした「和太鼓事業」。ホーランエーの船出と地域の活気づけを果たし、3年越しの思いがやっと叶った。ホーランエー保存会からも大変喜ばれた。子ども達と一緒に大きな達成感を味わうことが出来た。
- ・昨年度、デジタルアーカイブした「高津餅つき音頭」を地区内4つの保育園の年長児を対象にし「高津餅つき音頭に親しむ会」を実施した。ユタラボにも協力してもらい、高校生1名が参加。園児と交流してもらった。高津の伝統文化に触れ、関わる沢山の大人との異世代間交流にもなった。
- ・毎日の子どもの見守り、ウォーキングをしながらの「ながら見守り」などと呼びかけ、日々の地域の安全・安心なまちづくりを実践している。
- ・万葉の里ひとまるフェスタの「ひとまるつながりマルシェ」にて、異世代間交流をとおり、人と人との繋がり、根本的な関係づくりを図った。今後も継続していきたい。

4. 残された課題と今後の提案

- ・情報発信の徹底・住民周知
- ・部会でしっかりと協議し、役員会で3部会の活動内容等を共有しながら事業を進めていく。
- ・関わる人が固定化されているため、一緒に活動してくれる人を増やす必要がある。
- ・部会長への負担軽減
- ・来年度よりまちづくりプランが2期目に入る。立ち上げからの3年を振り返り、次の3年プランへ活かした良いものにしたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

設立3年目、今年度から活動しやすくなり少しずつ動き出した。動き出した分、評価もいただけるが意見や課題も多く見えてきた。見えてきた課題に対して、すぐには解決できないことも沢山あるが、役員会もしくは個人的にでも相談できる環境であることが、とてもあり難いと感じた1年でした。

これから活動していくにあたって活動プランも二期目に入るので、自治会、他団体との連携に意識を向け、沢山の人の人に関わってもらえるような活動をしていきたいと思います。

地域魅力化応援隊員 氏名 尼子 達夫

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

安田公民館

2. 配置年月

平成27年5月から

3. 活動の概要

① 活動の内容

・平成29年3月18日に臨時総会を開催し地域自治組織を立上げ、平成29年4月24日（日）総会を開催し「地域自治組織安田地域づくり協議会」を設立、平成29年5月18日に自治組織として正式に益田市の認定を受けました。そして、平成30年5月1日付けで一般社団法人化し、平成30年5月24日に安田地域づくり協議会の財産の寄付を受け一般社団法人安田地域づくり協議会として再出発しました。

・令和5年6月8日一般社団法人安田地域づくり協議会総会を開催しました。令和4年度（第五期）の一般社団法人安田地域づくり協議会の実績及び決算報告、税務申告書提出、監査報告を行い承認可決しました。また、今年度代議員の改選にあたり新たな代議員の名簿が発表され任期は令和8年度定期総会終了までの期間となります。次に令和5年度（第六期）の一般社団法人安田地域づくり協議会の事業計画案及び予算案について協議し承認可決しました。

・今年度の取り組みは、「やすだ村ええもん市」「史跡遺跡整備」「環境整備」「地域内買物支援」の非営利事業と、営利事業の「地域お助け隊」「パンカフェ営業委託」事業があります。新型コロナウイルス蔓延防止のため3年間中止していた「やすだ村ええもん市」を4年ぶりに開催することが出来ました。「パンカフェ営業委託」事業は、新たな事業者により令和4年2月23日開業以来2年経過し順調に営業しています。その他の非営利事業は例年通り行っています。

『やすだ村ええもん市』事業

安田地域で生産された農作物、手作り品、加工品などの販売を通して農産物の生産、加工、独自商品の開発などを行い地域住民の生き甲斐づくりと地域活性化を図ります。今年度7月9日、10月15日、12月10日に開催しました、久しぶりの開催で出店者は毎回20名以上、来場者数220名以上と大盛況でした。また、「やすだ村ええもん市」に代わるものとして石見津田駅での土曜朝市を毎月第四土曜日に10時から11時30分まで開催してきました。開催日はR5年4月22日、5月27日、6月24日、7月22日、8月26日、9月23日、10月28日、11月25日、12月23日、1月27日開催予定、2月24日開催予定、3月23日開催予定の12回でした。



『地域お助け隊』事業

地域の高齢化が進み、作業が困難な住民に代わって有償で草刈り・伐採作業を代行する「地域お助け隊」を結成して9年目となり知名度も上がり安定して需要があります。地域住民が安心して暮らせる環境づくりと作業従事者の生き甲斐づくりに貢献しています。現在登録作業従事者は男性24名、女性3名、令和5年4月から令和6年1月までの受注件数は102件、うち草刈伐採作業が59件、庭木剪定作業が30件、墓掃除が4件、その他9件です。



『史跡・遺跡整備』事業

旧山陰道、丸山公園の整備を行い、歴史の伝承事業に取り組み保存してきた先駆者たちの業績を周知する事で、地域の方に安田人としての誇りを持たせます。安田地区に残る旧山陰道と丸山公園の草刈を年2回実施しました。木部境～津田峠橋、寺町～鹿田峠、大和ゴム～東町境、丸山公園の4地区で作業しました。

第一回目 令和5年6月25日（日）AM7：00～9：00 参加者：34名

第二回目 令和5年10月22日（日）AM7：00～9：00 参加者：36名



『地域環境整備』事業

地域の環境美化をすすめ、住民が明るく快適に暮らせる環境を守ります。今年度、新たに「コスモスの里づくり」として公民館近くの休耕地にコスモス、彼岸花、水仙を栽培し、景観の美化を図りウォーキングを開催したりして安田地区民の憩いの場として誇れる場所にしていきます。また、隣接する中島偕弼顕彰碑がある公園の整備を維持継続していきます。この事業を始めるにあたり市の「まちづくり活動特別補助金」を申請し、この事業に必要な機械類の購入をしました。

『パンカフェ運営』事業

石見津田駅のパンカフェは先代のパン屋さんが廃業の後、新たな事業者により令和4年2月23日（水）から「駅パンくるくる」として営業を再開しています。営業品目は、毎日食べたい「シンプル食パン1斤」と幸せ気分の「ご褒美食パン2斤」、6種のロールパン（プレーン、チーズ、コーン、チョコ、レーズン、ウィンナー）に至福のあんパン、焼きカレーパン、つぶつぶ栗あんパンを、新たに、こし餡クリームチーズパン、くるみパンを提供しています。取扱品目が徐々に増えてきて、皆様に喜んでいただいています。

この「駅パンくるくる」は、石見津田駅舎を改築した店舗と設備一式を「一般社団法人安田地域づくり協議会」が益田市から借り受け、パンカフェ運営を個人の事業者に委託しているものです。



『地域内買物支援』事業

移動手段を持たない高齢者などの買物困難者のために、梅寿会とひれふり苑の介護施設の車で職員さんが、地域のボランティアスタッフ数名と一緒に毎月第二、第四水曜日に地区内のスーパーでの買物をサポートして下さっています。介護施設の車がない時は協議会が用意した車で実施しています。（いずれの場合も無償で）地域の皆さんからは感謝の言葉を戴いています。現在の希望者は津田地区、井の迫地区の方だけですが、高齢化が進み希望者が増えてくると思われます。



② 活動の成果及び効果

各事業の取組について、「やすだ村ええもん市」事業は、新型コロナウイルスの蔓延のため、過去3年間中止しました。再開を待ち望む方が多く4年ぶりに開催することが出来、やっと通常が戻ってきたと喜んでいます。また、毎月第四土曜日開催の石見津田駅での土曜朝市を4月から毎月行ってきてこちらも毎月開催が定着してきまし

た。地域住民の皆様は開催を心待ちにしておられ毎回喜んで頂いています。「地域お助け隊」事業は、受注件数、収入金額共に前年度を少し下回っています。継続的に依頼される方が増えており、信頼して頂いていることが実感できます。また、作業に従事してくださるメンバーにとってもアルバイト収入となり、生き甲斐づくりにも貢献しています。今後も草刈、伐採作業等の依頼は高齢化と共に増加していくものと思われます。「史跡遺跡整備」事業は旧山陰道の保存を主目的に、併せて丸山公園の草刈作業を地区の皆さんに参加して頂いて行っており、当地区の恒例行事となっています。

「環境整備」事業は遠田川、嶽川の草刈と海洋漂着物の回収を行っています。最近では海水面の上昇の為に河川の水位も上がり河川内の草刈作業の必要がなくなってきました。「パンカフェ運営」事業は平成30年4月1日開業以来6年目となりました。途中、横浜からIターンされた来須さんが「駅パンくるくる」として引き続きパンカフェを営業され二年経過しようとしています。店舗販売のみならず市内全域へ当協議会のスタッフが定期的に移動販売の支援をしております。店のない地域では訪問を大変喜ばれ支持されています。

「地域内買物支援」事業は毎月第二、第四水曜日の二回の実施ですが、移動手段を持たない高齢者などの外出の機会づくりと皆さんと語り合える場となっています。

また、公民館事業とタイアップして12月23日(土)から令和6年1月8日(月)間の安田公民館でのイルミネーション点灯イベントにも準備段階から参加協力しました。

4. 残された課題と今後の提案

後継者の育成は依然として重要な課題です。平成29年4月に任意団体としての自治組織安田地域づくり協議会を立ち上げて6年、平成30年5月に一般社団法人安田地域づくり協議会を設立して5年経過しようとしています。スタッフはそれぞれ歳取っていきますので、いつまでこの状態を続けていけるのか心配です。「地域お助け隊」の作業自体は、可能な限りエンジンから電動へと道具類も新しく揃えてきており充実してきたので、効率的に速くこなせるようになってきています。スタッフは60歳代以上が多いので若い人の加入が望まれます。「パンカフェ」の営業は新しいスタッフに代わり令和4年2月より営業を再開しています。以前より更に魅力的で充実した商品展開で、地域の皆さんに喜んで戴ける店づくりを目指します。地元の名物パン屋さんとなるように支援していきます。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員として地域自治組織の支援をして九年が経過しようとしています。地域自治組織の収益事業は「地域お助け隊」事業と「パンカフェ運営」事業があります。「地域お助け隊」事業では、作業従事者の高齢化や熱中症対策もあり夏場の作業は原則的に半日とするよう心がけています。皆さんの日ごろからの心がけのお陰で故障者もなく、事故も無く一年を過ごすことが出来ました。メンバーが足りない時には作業を手伝います。「パンカフェ運営」事業では、パンのメニューチラシ、注文票、ラベルシールなどの印刷物作成、毎日の売り上げ状況記録、注文商品の配達など支援をしています。地域の皆さんがより安心して暮らしていけるよう、もう一年間地域の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

地域魅力化応援隊員 氏名 佐々木 浩臣

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

鎌手地区

2. 配置年月

令和4年7月から

3. 活動の概要

①活動の内容

- ・役員会の実施
- ・地域づくり交流会（6/3 豊川）参加
- ・各部会会合出席
- ・かまて地域づくり協議会だより No15～17 発行
- ・生活支援体制整備事業研修会（1/11・2/15）参加

【思いやり部会】

- ・「お助け隊」草刈り事業・唐音水仙公園駐車場誘導の継続実施
鎌手保育所、鎌手小学校、鎌手公民館の草刈りボランティアの実施
- ・「移動困難者の支援を考える会」買い物支援バスの運行（2回/月）午前、午後の2便化を実施

【ひとづくり部会】

- ・U-15 カマテミーティングの実施
- ・かまてキャンプの実施
- ・公民館にこにこマーケット参加

【魅力づくり部会】

- ・「coffee work shop」の継続実施
 - a. 他地区でのコーヒー提供（こびらマーケット、北仙道きんさい市他）
 - b. かまカフェの実施、鎌手6地区にて開催
 - c. コーヒー以外の提供が出来ないか試作を実施
- ・「まちづくり特別補助事業」の継続
 - a. SUP体験を土田・大谷で6月から10月までの計画で実施
 - b. 釣り体験の実施
- ・ユタラボ主催の「豊かな暮らしについて考える2日間」と、「大正大学生の実習の受け入れ」を2回実施
- ・鎌手魅力マップの作成の継続

【部会合同の事業】

- ・鎌手小学校、公民館の草刈りボランティア
- ・親子活動 SUP 体験
- ・モルック体験

②活動の成果及び効果

【思いやり部会】

- ・「お助け隊」による草刈り等の活動は年を重ねるごとに依頼件数が増加し令和5年度は120件を超えるまでになり、鎌手地区の人達に完全に浸透してきたと言えるでしょう。草刈だけでなく剪定、墓掃除、溝掃除、球根の植え替え等多様な依頼を受けています。
- ・「移動困難者の支援を考える会」では昨年度末から試験運用を始めた午前の便の定期運行を始めて、1日2便化を実施。午前と午後のルートは地域を変えたコースとなっており、鎌手地区全域を網羅できるようになった。コロナの5類移行により乗車定員が20名に緩和された事で、利用希望する人の増加にも対応出来る様になった。

〔お助け隊草刈の様子〕



〔移動支援バスの様子〕



【ひとづくり部会】

- ・本年度はU-15 カマテミーティングを通じて中学生のやりたいを実現する活動に力を入れてきた結果「かまてキャンプ」を実行でき、中学生が自分達で考え出来たことで自信を持つことにつながったと思う。又キャンプに参加した小学生が中学校に上がった時に自分達もこんな事がやりたいと思う事が出来た活動だった。
- ・鎌手公民館で年4回実施されているにこにこマーケットに今年度も参加し自分達で収穫して作ったウメジュースの販売を実施。地域の人達と触れ合った。

〔かまてキャンプ、流しソーメン台作り〕



〔にこにこマーケット参加〕



【魅力づくり部会】

- ・「coffee work shop」では、昨年実施した「かまカフェ」を継続して実施、また実施して欲しいとの意見が多く寄せられ地域の交流の場としての必要性を感じた。昨年は地域の方をお客様として迎えていたが今年は自分でカップに注いだりして、部会のメンバーも地域の人の中に入って話をする様になり交流を深める事が出来た。

又、今年は空港促進の一環で体験コンテンツ事業の補助金に申請し、承認され備品の充実を図ることが出来き、今後体験希望者に対して事業を展開していく事となった。

- ・SUP 体験は一般向けと地域の子ども向けと実施。一般向けにおいては天候や希望者が無く開催を中止する回もありましたが参加された方は鎌手の海に感激したと喜ばれていました。

〔かまカフェ in 木部〕



〔子ども会 SUP 体験〕



【部会合同企画】

- ・今年は部会の垣根を超えた活動も増えて来ました。ひとづくり部会と魅力づくり部会合同で親子ふれあい SUP 体験会、モルックの体験会を実施。思いやり部会と魅力づくり部会でボランティア草刈を実施など今後も

〔親子体験活動〕



〔モルック体験〕



4. 残された課題と今後の提案

今年度は5月にコロナが5類への引き下げにより、コロナ禍以前の状況に戻りつつある中、会のメンバーも私生活での行事が増えていき自治組織の事業にメンバーが揃わずやむなく中止や参加取りやめの時もありました。今後ますますメンバーのプライベートの活動が増える中どのように会の活動を維持していくか考える時期に来ていると思う。又思いやり部会「お助け隊」の活動は会の収入源ではあ

るが、平日に活動するメンバーは高齢であり依頼件数の増加や今夏の暑さを考えると厳しい面がある、その為自走式の草刈り機の購入を検討中であり、早ければ今年度中に導入する予定である。ひとつづくり部会は活動としては活発に行っているが、メンバー的に一部の人に負担が偏っている。今後部会のくぐりに拘らず他の部会に応援を頼むようにして人員の確保をしていく必要があると思う。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

昨年は年度の途中で応援隊員として赴任し、訳も分からないまま活動してきました。今年のかまで地域づくり協議会の体制も変わり会長以下若返りを図ることが出来ましたが、各部会の部会長が新任になったため事務局としてより責任が重くなりました。何とかフォロー出来、無事に1年が終わる事が出来ました。次年度は今年度の課題を一つでもクリアしてより良い自治組織の活動の一助になるよう努めます。

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

益田市種地区

2. 配置年月

令和3年4月12日より配置

3. 活動の概要

①活動の内容

地域自治組織「種むらづくり推進協議会」

 高齢者・子ども支援部会

三年目に入る「通所型サービスB事業」（住民による支援）と同じく、「訪問型サービスD事業」も三年目に入った。

毎月毎週水曜日 高齢者サロンを開催（開催多数なのでメニューは省略）

5月 第一回役員会と支援部会会議

7月 雪舟の郷記念館へバス遠足

7月 益田市自治組織連携事業を実現

9月 梨狩り・ぶどう狩り遠足

10月 アクアス遠足

2月 4部会合同役員会



 災害対策部会

6月 第一回役員会「梅雨シーズンにおける防災への徹底」

8月 第二回役員会「台風シーズンにおける防災への徹底」

12月 第三回役員会「大雪シーズンにおける防災への徹底」

 定住対策部会

6月 第一回役員会

8月 空き家視察

10月 第二回役員会

2月 第三回役員会・4部会合同役員会



 農業振興部会

5月 第一回役員会

8月 第二回役員会

12月 部会長・応援隊員協議

2月 第三回役員会・4部会合同役員会



 役員会

5月 第一回役員会

9月 第二回役員会

12月 第三回役員会

2月 第四回役員会

総会

6月 種むらづくり推進協議会 総会実施

その他

 東陽中ボランティアハウス受入れ



②活動の成果及び効果

地域自治組織「種むらづくり推進協議会」

【高齢者・子ども支援部会】

生活輸送事業として3年目に入った。益田市介護予防・日常生活支援総合事業訪問型サービスD実施団体、通所型サービスB事業も軌道に乗り始めました。益田市東部・中部地域包括支援センターにケアプランを作成してもらい、口こみから65歳以上の利用者さんも徐々に増え、今は昨年に比べても大幅に参加者が増えた。新型コロナウイルス感染症も5類に移行され、平均でも15名位の方々がサロン等へ来てくれている。そして、移動支援稼働率も大幅に伸びている。地域を見てもここ種の事業は益田市の中でもここだけです。サロンは講師などを呼び、子どもや高齢者らが楽しんでもらえるメニューを作り、この活動が「ひきこもり」の予防にでも少しでもなれたらと考えている。そして他機関と連携をして、アクアスへバス遠足をしたり、地元の記念館などへ見学や遊びに行ったりと種地区だけに留まらず、外へも遊びに行っている。昨年からは始めた「誕生日ケーキを食べる企画」も今年も実施している。特に独居の方などは涙を流し喜んでくれるし、同居の方にも喜んでもらえる。同居していても年寄り除外な家庭も少なくないからだ。そういったところから、現状把握し、包括支援員らと早めの対処をし、二次災害に結びつかないようにしている。かなり奥深い意義ある取り組みであると考えている。

【災害対策部会】

時期時期に沿った災害、例えば6月に行なった「梅雨時期の防災」であったり、冬の「大雪についての防災」などがそうです。そして、昨年兵庫県立大学の先生を招いて行った種地区独自の防災ハザードマップ作りも全体で作るにはすぐには完成しないのでできる範囲から始めている。避難誘導が難しい箇所から有識者を入れて、強い物を作り上げようと思っています。

【定住対策部会】

定住対策としての主活動は次年度に向けて、いよいよ農業シェアリング施設を作り上げる準備が始まります。種地区に空き家が多く存在し、その問題にも着手するが、並行して空き地や耕作放棄地も増加している。この問題に少し有識者を入れて所有者と勉強会を開催したりしようと考えている。事業者（福岡）を入れて本格的に動く。関係人口と交流人口を前面に出し、都市部から人を種地区へ呼び込み。産業や人の動きをもってきます。

【農業振興部会】

毎年末には、種だよりを種出身者などに送る際、まなびや工房の正月餅などの注文書と一緒に送っている。その注文が毎年多い。これに伴いFAXの注文だけでなくSNSの導入（facebookだけでなくインスタ）も実施した。これにより昨年末も飛躍的に注文数も増えた。

今後は、その正月餅が出来るまでの生産過程などにも携わってもらおうと考えていて、種地区のアグリ種といわみ農援隊（代表有田）とが連携し合い、もち米作りを一緒にしてみるパッケージも作りました。

4. 残された課題と今後の提案

まだまだ課題はある。そして解決にしても正解はない。そう僕は思っている。

地域の方々の満足を得るのはかなり難しいし、ゴールはない。そして年々人口は減り担い手は少なくなっていく。だけど地域は残り、地域活動も残る。人が居ないのに組織だけはある・・・無茶苦茶大きく無理な構図だけ残る・・・。

僕は常々地域づくり担当者会議でも言っている「連携」「協働」。言葉だけじゃダメであり、格好だけじゃダメ。行動でいつかはしないと衰退するばかりだ。

いつかのタイミングかで、「合併」も視野に入れていかないと存続は難しい。人数も少なくなっているのですから・・・

僕は30代の舞っていた頃から「神楽では飯は食えん…」と思っていたが、現に今そうやってきた。これだけ社中があり、保存会があり、各社中らで挙って独自のスタイルを継承しているが、これはこれから衰退する一方だと残念ですが考えています。どこかのタイミングで連携を図り、少しずつ数を減らし社中の人数を増やしていかないと共倒れになるだろう。種もまだ「運動会をする！」と意気込んでいるが、参加する人も居ない様な運動会をしても何が楽しいんだろう？そうではなく、次に変わるスタイルのスポーツ大会でも文化祭でもいいのではないだろうか？次年度から具体的にメスを入れていく。空き家問題も、人口減ってきているのだから、住んでいた箱ものは空くのは当たり前。その空き家を今後どうするのか？を次年度新たに会社を立ち上げ、種地区からモデルを作っていく構想でいます。

地域づくりは【「連携」と「協働」】の構築だと僕は考えます。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

令和5年度の応援隊員を終えるが、二昨年末に心筋梗塞になり生死をさまよった。幸いにも命拾いし静養させて頂き関わっている全ての皆さまに深謝しています。連携のまちづくり推進課の田原課長をはじめとする職員の皆さまや種公民館職員さんらにも協力頂き職員同士の連携でこの年度も働くことが出来ました事を先ず最初にこの場をおかりし感謝申し上げます。ありがとうございました。各地区の応援隊員さまにも深く感謝しております。ありがとうございました。

その様な中で今年度始まってから、withコロナの考え方を役員会などで話し合い机上論ではあるが、行事再開に向けての準備をし、役員レベルでは周知させ、少しずつイベントを開催していきました。

今年度で3年目が終わります。1年目はとにかく地域と人を覚えるのに一生懸命でこれはずっとすることではあろうが、とにかく地域と人を覚えるのに一生懸命で、2年目はやっと地域の課題や地域の事がわかってきたのでどうすれば？などの問題と解決の机上論を作れてきた。地域の方々からも「有田君、ありがた君」「有田さんの顔見にサロン来るよ」などの会話が生まれてきた。やっと次年度から考えたプロジェクトを実践していける時期に入ってきました。3年経つのでいよいよ煮詰めて準備して

いた計画を各所と連携して行動に移し始めました。もう少しだけ種で僕のカラーを出して、先進地モデルとなる様に頑張っていきたいと思います。身体を労わりながらもう少しだけ種むらづくり推進協議会を支えたいと思います。



地域魅力化応援隊員 氏名 岡崎 友臣

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

豊川公民館

2. 配置年月

平成26年4月1日から

3. 活動の概要

①活動の内容

I. 地域自治組織に関わる業務

- ・地域自治組織の支援（各会議・定期総会の開催、運営の支援・調整等）
- ・まちづくり活動の支援（公民館との協働、関係諸団体との連絡・調整等）
- ・第3期まちづくりプランの構想（2023～） ・視察対応等 ・研修会等
- ・益田市まちづくり活動交付金（申請、年度末の報告、経理等の提携業務等）
- ・益田市まちづくり特別補助金（審査会、〃）
- ・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援（会議、運営の支援・調整、経理等）

II. まちづくり活動計画

- ・令和5年度の事業計画に沿った活動を中心に豊川らしい「ひとづくり・地域づくり」を目ざした活動を実施する。
- ・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）
 - ★とよかわ寺子屋の運営
 - ★中高生の活動の支援（とよかわっしょい!!）
 - ★地区内外との交流
 - ★保小中の活動の支援
 - ★地域内外への情報発信
 - ★「とよかわの家」の管理運営
 - ★「とよかわゴン」の管理運営
 - ★歴史的遺産の保存
 - ★お茶プロジェクトの実施
 - ★「マスダひとまちカレッジ とよかわキャンパス」の運営
- ・まちづくり部会（自治会との連携）
 - ★空き家調査の継続（危険空き家等の状況把握と空き家バンクへの推進）
 - ★安心して暮らせるまちづくり（自主防災対策・鳥獣対策）
 - ★情報の共有・活動の活性化（自治組織、活動内容の周知）

②活動の成果及び効果

I. 地域自治組織に関わる業務

- ・とよかわの未来をつくる会 役員会の開催
 - : 第1回 令和5年 5月10日（水）19:00～
 - 豊川公民館にて役員11名 他6名 計17名出席
 - ★役員改選及び組織体制について
 - ★定期総会の説明（次第、事業報告、決算報告概要等）
 - 4年連続で定例総会は開催せず、書面表決にて対応する。
 - : 第2回 令和5年 7月 4日（火）19:00～
 - 豊川公民館にて役員8名 他6名 計14名にて開催
 - ★ 第6回 とよかわの未来をつくる会 定期総会（書面表決での実施）
 - : 定例総会「書面表決」の集計結果報告

各戸（約300戸）へ書面表決書を配布。181戸より回答、地区民の理解と協力により定例総会の議案は可決。令和5年5月28日付けをもって承認。

★地域づくり団体全国研修交流会について説明

★モデル“地域”ベンキョウカイの報告

- ・とよかわの未来をつくる会 会議開催状況

:今年度は三役会を期初に開催、役員会7回、ひとづくり部会3回、防災研修会を含むまちづくり部会3回を開催予定。

第3期のプランに向けた「楽しく」「子どもも大人も」「自分たちで」をキーワードに色々な世代を巻き込む仕掛けづくりを行う。

- ・益田市まちづくり活動交付金（650千円）

:運営費及び事業費等、各部会の活動支援に充当。

- ・益田市まちづくり活動特別補助金

:今期は申請せず

- ・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援

:ひとづくり部会と連携し3回の会議を開催。

★事業活動 とよかわっしょい!!・小中高生放課後事業・PTCA 親子体験プログラム・豊川地区拠点整備の意見交換等の実施及び支援。



とよかわの未来をつくる会役員会



タイルアート教室（東中6かるPJ）

Ⅱ. まちづくり活動計画

- ・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）

★とよかわ寺子屋の運営

英語教室をはじめとし、夏休みには「すたでいスペースとよかわ」にて科学教室、テレプレゼンシステム「窓」を活用したベトナム（ハノイ）とのオンライン交流を実施。冬休みには書初め教室等を開催し子ども達の主体的な学びを深める活動を展開。

★中高生の活動の支援（とよかわっしょい!!）

益田東中学校6かるプロジェクトや地域学習の支援。文化祭での出店等、地域活動を行う。

とよかわっしょい!!OBが全国交流会分科会での進行や活動報告を務める

★地区内外との交流

地区内の世代間交流は小学校・公民館の各イベントを通して図れた。

地区外の交流についてはライフキャリア教育の為に「とよかわの家」を介した大学生との交流や県内外からの視察を通して実施できた。

★「マスタビとまちカレッジ とよかわキャンパス」の運営

新規講座として「プラモデル教室」を実施。誰かの「楽しい」をみんなの「楽しい」にする講座として、若者世代をターゲットに取組みを展開。今後は男女

の交流の場として発展させたい。

★保小中の活動の支援

社会教育コーディネーターや小学校 PTA と連携し益田東中学校の職場体験・公民館体験、6 かるプロジェクト等を実施。「ふるさと教育」の活動を支援。

★「とよかわの家」管理運営

お試し住宅として 2 件、地域実習関連として 4 件、地域イベントの関連が 18 件利用あり。本来の目的である関係人口の促進は図れたように思う。タイルアート教室により五右衛門風呂や裏庭の環境整備を行う。

★「とよかわゴンの運営管理」

百歳体操等高齢者介護予防や生活支援に繋がる事業、小学校、保育園の交流活動やシニアカフェ等の各イベントでの活用が図れた

★お茶プロジェクトの実施

地区の有志による茶畑の整備、茶摘み、袋詰め等小中学生とのお茶づくりを実施。未来へ繋ぐお茶づくりとして活動が評価され「tokyo tea party」で紹介。

★歴史的遺産の保存

地区の方々の協力を得ながら遺跡見学路等の階段設置。倒木処理、除草作業により環境整備や維持管理を実施。

名所である「岩栃しだれ桜」の保存会の後継者不足も解消し活動中。

★地域内外への情報発信

HP やフェイスブック、インスタグラム等 QR コードの利用により豊川地区の魅力を伝える為、地域内外へ情報発信を行う。

・ひとづくり部会（自治会との連携）

★空き家調査の継続

空き家の現状把握により空き家バンクへのアプローチできる物件に対して随時対応を図る。空き家ばかりではなく、「空き地」の調査、把握により迅速な情報提供ができるよう対応方法を検討中。

★安心して暮らせる地域づくりの推進（自主防災対策・鳥獣対策）

益田市の防災対策や災害発生時の対処等の研修会と鳥獣の生態を踏まえた被害対策の研修会を併せて開催。自主防災組織への取組みや鳥獣被害防止への関心を促す。

★情報の共有・活動の活性化（自治組織、活動内容の周知）

定例の会議及び「本会のだより（隔月発行）」、「チラシ」等の作成・配布により本会の活動内容を紹介。



ハノイとのオンライン交流



地域づくり全国研修交流会



防災・鳥獣対策防止研修会

4. 残された課題と今後の提案

I. 地域自治組織に関わる業務

今年度は自治組織設立7年目となり第3期まちづくり活動計画（5ヶ年）の初年度ではあったが、「地域づくり団体全国研修交流会島根大会」への参画もあり、まだ書面としては完成していないが、3期の活動内容としてはこれまで1期、2期の子どもを中心とした事業から色々な世代を巻き込む仕掛けづくりへと移行し担い手不足の解消を図る取組としても推進している。

地域自治組織設立8年目となる来年度は、「第3期まちづくり活動計画」を軸として、現状通り各事業の実施を視野に地域課題の整理・解決、情報の共有・周知等、地域運営の仕組みづくりの充実を図り、地域のために住民が心をつなげて、夢と希望を持ち活力ある「持続可能な地域」に向けた新たな一歩を踏み出すための1年としたい。

Ⅱ. まちづくり活動計画

例年、地域の将来ビジョンを掲げた「まちづくりプラン」や課題解決に向けて実施計画を定めた「まちづくり活動計画」を柱としてより良い形を模索しながら取組みを進めてきた。地域の中での生活や地域づくりで感じている課題を共有し、その課題を少しでも解決して行けるよう計画している。これまでの「ひとづくり」を中心とした地域づくりと併せて、地域を維持していく「まちづくり」の構築を図らなければならないと考える。

・ひとづくり部会

地域内外や世代間の交流の機会が少なく、地域の未来を担う次世代の人材が不足している。新たに地域生活支援体制の整備において「生活支援コーディネーター」のひとづくり部会への参画を行い、地域の高齢者支援など事業の創出に向けた活動と連携しながら地域の交流を図りたい。また、おとし居住施設「とよかわの家」を通して移住促進はもとより関係人口への取組み、地域内外の交流やひとづくりの推進が必要と考える。

・まちづくり部会

地域住民への会の活動内容の周知やより多くの方々に参画してもらう仕組みづくりを作るため自治会長を中心に安心して暮らせる地域づくりに向けた取組を重視、より一層の地域の活性化・魅力の創出に向け、空き家や空き地の活用、特定家屋の把握、鳥獣被害防止、各自治会での自主防災対策の支援を図りたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は上記以外の活動として、下記の「地域づくり活動」等への参加・支援に取組んだ。

「地域づくり活動」では、公民館・小中高・地域イベントのサポートにより地域の現状把握や住民との交流を図る。独自のパソコン教室「パソコンカフェ(月2回)」を開催。

「地域づくり団体全国研修交流会」に参画し「地域づくり」を一体的に推進している事例として活動紹介を行った。私たちが目ざす地域住民への思い「住みよい豊川、住み続けたい豊川」を一人でも多くの地区の方々に感じていただけるよう引き続き地域の為に協力したいと考えている。

事務局としては各事業の実施や各会議の進行等スムーズに運ぶよう各部会と連携しサポートして行きたい。

来年度は「豊川地区拠点整備計画」の核となる年でもあり重要な一年になりそう。

地域魅力化応援隊員 氏名 石田 江里加

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

真砂地区

2. 配置年月

令和5年11月から

3. 活動の概要

I 地域自治組織に関わる業務

◇地域自治組織の支援

- ・役員会
- ・本部の会計
- ・各部会
- ・自主防災団体運営真砂の支援各種団体との調整等
- ・備品管理
- ・情報発信（ときめき通信の発行）

◇ひら山のふもとカフェ tele-glue の施設管理、イベントの企画運営支援

◇情報発信（ときめき通信の作成、発行）

◇自治組織座談会（発起人会）に関わる業務

II 真砂複合施設管理運営準備委員会

- ・情報発信（複合施設ニュースレターの作成、発行）

III イベント実行委員会

- ・委員として、イベント開催についての協議、開催準備等

②活動の成果及び効果

I 地域自治組織に関わる業務

- ・役員会開催 12/6、2月（予定）
- ・支え合い部会会議 12/2
- ・認知症予防カフェ（支え合い部会）12月17日（日）
参加者：23名（スタッフ含）

デイサービスひぐらし苑にて、半年ぶりに開催。当日の天気は雪模様だったが送迎ありのため多くの方に参加いただき、お喋りやビンゴゲームを楽しんだ。

- ・移動販売 11/13（参加者20名） 11/27（参加者13名）、
12/11（参加者25名） 12/18（参加者20名）

1/15（参加者 23 名） 1/22（参加者 23 名） 1/29 参加者（23 名）

今後の予定（2/9、2/19、3/11、3/18、3/25）

真砂地区では数年前にバス路線が廃止になり独居や高齢者世帯の買い物弱者
買い物難民が増えており、11 月よりさわやかへるす真砂さんの百歳体操の
日程に合わせ、ローソン高津店さんに依頼。

11 月は tele-glue とデイサービスひぐらし苑にて販売。

12 月からは上記 2 カ所に加え、地区内 2 カ所、計 4 ヶ所で販売。

2 月からは一カ所減らし、地区内 3 ヶ所で販売。

- ・防災倉庫設置（自主防災団体運営真砂）12 月
コミュニティ助成金を活用し、防災備品整備事業として複合施設内に防災倉庫
を設置。



認知症予防カフェ



移動販売 tele-glue



移動販売 ひぐらし苑



移動販売（地区内①）



移動販売（地区内②）



防災倉庫

◇ひら山のふもとカフェ tele-glue 活動実績

岡山指圧院

出張マッサージ…毎週火曜日午前中

イツモ ni+

（4/9、5/24、6/11、7/29、8/24、9/23、10/14、11/9、
12/22、1/23、2/25 予定、3 月予定）

うつわと旅する世界の料理 2/23 予定

ボランティアハウス 3/27 予定

お気軽カフェ

12 月から百歳体操がある月曜日、診療がある火・金
曜日に実施。ココアやコーヒー等を販売。

駄菓子屋

週 2 日 16:00～17:00 小学生や保育園児向けに実施
（1/15、1/19、1/22、1/26、1/29、2/2）

大人子ども含め毎回 20 名以上が来店



Tele-glue 外観



看板



イツモ ni+ ランチ

◇ときめき通信の発行 1月

◇自治組織座談会発起人会 12/14

- ・幹事として第三回自治組織座談会を開催 1月27日（土）

場所：美都町字津川口 386 番地 3

内容：講義「地域マネージャー制度について」

講師：一般社団法人ぬくもりの里 理事・事務局長 小原静伍さん

施設見学：益田市立宿泊交流センター

14 地区、44 名参加（連携のまちづくり推進課 3 名）



自治組織座談会



施設見学①



施設見学②

Ⅱ 真砂複合施設管理運営準備委員会

- ・複合施設ニュースレター（毎月発行）

Ⅲ イベント実行委員会

- ・まるごとフェスタ 11月19日（日）
- ・桜の管理作業 2月18日（日）予定
- ・桜のライトアップ 3月末～4月上旬予定



まるごとフェスタ①



まるごとフェスタ②



まるごとフェスタ③

4. 残された課題と今後の提案

空き家の減少、促進。

年々深刻となる人口減少、高齢化。交通弱者の方の買い物、通院支援。

ひら山のふもとカフェ tele-glue は高齢者も子どもも関係なく、地域の方がもっと気軽に集まれる場所になるようイベントを企画し、運営していきたい。

今はまだ複合施設の運営がはじまり、手探り状態。小学校・保育園・公民館・診療所としっかりと連携を取りながら一体となって地域の問題解決に向け取り組んでいきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

年度途中の11月からの勤務ということもあり、なにもわからず手探り状態でしたが、前任者の岸本さんや、会長、事務局長、各役員さんをはじめ多くの方にご

助力いただいての仕事となりました。生まれ育った場所での仕事ということもあり、見知った方が多く、地域の方々にはいつも温かい言葉をかけていただき感謝しています。まだまだ未熟でわからないことだらけではありますが、地域のためになにが自分にできるのか考え、またしっかりとサポートできるよう頑張りたいと思います。

地域魅力化応援隊員 氏名 大畑 咲絵

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署
西益田地区

2. 配置年月
令和元年6月から

3. 活動の概要

①活動の内容

西益田まちづくりの会 スローガン

“一人ひとりが輝く いいまちにしますダ !!”

「西益田に住むわたしたち一人ひとりが、役割を持ち、輝き、

いいまちにしていきたいと思います。」



◆運営委員会

- ・「西益田まちづくりの会」の全体運営、重点項目の推進
- ・4検討委員会の活動の確認及び、統括、アドバイス等
- ・いろいろな地域団体や実行委員会との連携、役員での参画
- ・広報活動（イベント等を活用した宣伝、SNSでの発信、たよりの発行 など）
- ・まちづくり活動特別補助金の最終統括（100万円）

◆地域振興検討委員会 ～つながりのあるまちにしよう～

- ・地域イベントを通して、人の「つながり」と「親睦・連帯感」を培う。
- ・住みよい西益田にするために、自然、文化、場所など、何でも活用する。

項 目	検 討・活 動 内 容
賑わいの創出・文化の継承	・賑わいの創出について検討する（のぼり旗・イルミネーション） ・地域イベントの工夫を検討する
拠点づくり・資源の活用	・住める空き家の情報を収集、整理する ・西益田きらりスポットをヒントに検討する

◆次世代育成検討委員会 ～ご縁を未来へつなげよう～

- ・各世代をつなぐ企画（取組）をして、豊かな文化や体験や人の思いを受け継ぐ。
- ・交流（ふれあい）で「つながり」を深める。（縦・横・団体組織間の関係）

項 目	検 討・活 動 内 容
世代間交流・世代間リレー	世代間交流を促す提案
地域の輪づくり	世代間・人・団体交流の模索

◆地域福祉検討委員会 ～声を掛け合って支え合おう『つろうて幸せに！』～

- ・地域の方々の不便の軽減のために、「困った」に応える取組をする。
- ・地域の「ふれあい」「笑い」をてこに、健康な心と体をつくる。

項 目	検 討・活 動 内 容
くらしサポート	くらしサポートを推進するための調査・研究 (困りごとアンケートの結果に基づく取組)
心と体の健康	健康な心と体づくりについての情報提供と検討

◆地域安全検討委員会 ～早め早めの行動で、あわてない安全なまちをつくろう～

- ・安全で安心して暮らせるよう、災害、事件、事故から生活を守る。
- ・鳥獣の被害を減らす。対策により生活を守る。

項 目	検 討・活 動 内 容
安全・安心なまちづくり	防災の学習と地域の安全についての検討 (防災避難マップ・交通安全の啓発)
鳥獣被害を減らそう	鳥獣の学習とそれに基づく検討

②活動の成果及び効果

◆運営委員会

☆「西益田まちづくりの会」の全体運営

- ・今年度は、全体会も含め計6回の会議を行い、自治組織設立5年目の活動の統括や、4検討委員会へのアドバイスなどを定期的に行った。

☆まちづくり活動特別補助金の申請 「梅賀山“里づくり会館”整備事業」

- ・梅賀山コミュニティセンターの敷地内にある、旧本俣賀診療所とその周辺を、斎藤勝広翁の業績顕彰や様々な地域振興活動の拠点として整備し、「郷土愛・ふれあい・笑顔」で地域活性化を促した。

斎藤勝広翁の業績をよりどころとした梅賀山の歴史を受け継ぐ活動は、住民の郷土愛と自信を培い、「ふれ合いが増え」、「話に花が咲き」、「声をかけ合い」、「笑顔」が増えることが期待される。



◆地域振興検討委員会

☆「空き家情報収集プリント」の作成・配布

- ・昨年度に引き続き、住める空き家に重点を置き検討を進めた。情報収集のためのプリントを作成し、地域からの情報提供を呼びかけた。

☆「おかえりなさい」のぼり旗の設置

- ・帰省時期のお盆と年末年始に合わせて、西益田の各地に設置した。ふるさとへ帰ってくる人を歓迎することが“地域振興”へつながると考え、5年前に製作したものを、今回久しぶりに設置した。

☆手作りイルミネーションで地域活性化を図る

- ・今回も、横田町家下の市営住宅横の空き地（旧豊田小跡地）を活用し、設置した。地元の中学生に参加を呼びかけ、交流を楽しみながら活動に取り組んだ。



◆次世代育成検討委員会

☆「西益田 灯火祭」の開催

- ・“地域のために何かしたい”という中学生の思いで始まったこの取組は、今年で4回目の開催となった。6月から西益田地区の中高生と大人からなる「西益田 灯火祭実行委員会」が企画検討を進め、11月に開催した。当日は、小学校や保育園、養護学校、福祉施設、地域の方々など、多くの方に作成協力いただいた竹灯籠約1500本を展示した。今年度の新たな取組みであった「竹のアーチ」や「スタンプラリー」、「ワークショップ」も盛況で、約1000人の来場者を楽しんでいただいた。このイベントを通して、昨年よりも更に多くの人との「つながり」を創出することができた。



◆地域福祉検討委員会

☆「西益田地区 あんしん連絡カード」の作成と配布

- ・このカードを作った目的は、「①自分が見るため（いろいろな連絡先など）」、「②万が一の時に、活用するため」で、主に高齢者世帯を中心に活用してもらおうと、全戸に配布した。

[illegible]

◆地域安全検討委員会

☆防災学習会の開催

- ・外部から講師をお招きし、「災害に強い地域社会づくり」についてお話いただいた。予期せぬ災害に対応するために大切なことは、「住民同士の協同した対応」と「普段からのコミュニケーション」が大切であることを学んだ。

☆鳥獣被害対策学習会の開催

- ・西部農林水産振興センターと農林水産課から講師をお招きし、身近な鳥獣の対策や家屋の被害対策、狩猟免許の取得方法についてお話しいただいた。鳥獣が実際に作物を獲る様子や、畑や水田に出没する様子を動画で紹介され、普段あまり見ることでできない動物の姿に、地域の皆さんは熱心に見入っておられた。



4. 残された課題と今後の提案

- ・地域自治組織設立から5年がたち、課題を検討する「話し合いの場」と「人の確保」は継続できている。今後は、「検討」の域を超え、どのように活動を展開していくかが課題となっている。

〈課題に対する提案〉

- ①子どもたちを巻き込んだ活動や事業で、保護者世代の巻き込みをねらう。
- ②検討委員会で、「課題解決を検討するが難しい案件」は、困難な理由も含めて地域へオープンに伝える。
- ③検討委員の枠を広げ、地域の方へ自主参加を呼びかける。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は、コロナの影響もだいぶおさまり、地域のイベントや行事が徐々に復活した年でした。今年度は、「灯火祭」を実行委員会形式にしたことで、10代から70代までの幅広い世代で活動できたことも、まちづくりの成果のひとつと感じています。まちづくりの大きなテーマは“つながり”で、「灯火祭」を始めとしたさまざまな活動で、まちづくりに興味をもって一緒に取り組んでくれる人たちが更に増えつつあることをこれからも大切にしていきたいと思います。

地域魅力化応援隊員 氏名 宅野 証平

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

二条公民館（管轄：上黒谷町・桂平町・黒周町・柏原町・愛栄町）

2. 配置年月

令和5年4月1日

3. 活動の概要

①活動の内容

- ・令和5年5月20日に「令和5年度 定期総会」を開催した。
- ・「令和2～7年度 元気なむらづくりプラン Part.2」と「活動計画」6カ年プランを、実践中である。
- ・なりわい、ひと、くらしの3部会があり、役員・運営委員全25名で構成

②活動の成果及び効果



日付	内容	担当部会
5月12日と 10月8日	のぞみの里バスツアーを2回開催 参加者10名、8名。 施設よりバスを出してもらい、苗ものやパンを購入した。	くらし 部会
5月20日	令和5年度 二条里づくりの会 定期総会 ・令和4年度の事業報告及び収支決算と監査報告 ・令和5年度の議案である事業計画案・収支予算案 ・その他、西南中学跡地をデジタルアーカイブ事業構想以上、参加者へ報告と議案についての議論をした。	全部会
6月20日	宮崎県美郷町職員、地域おこし協力隊の3名の視察 ・交流スペース「つどい」にて、二条里づくりの会設立までの変遷についてのプレゼン。 ・空き家対策（バンク登録状況）や空き家の再利用に向けた工夫を説明（岡崎ひと部会長） ・交通移送問題（買い物支援、医療機関受診支援）などの実情と将来に向けての話し合いをした。（佐藤会長）	ひと部会 くらし 部会
7月10日 以降毎月 第1月曜日	移動販売、ローソン益田高津店ととくし丸合同開催 ・2店併せて16名のお客さんで公民館前がにぎわった。 ・以降、毎月月曜日10:30～11:00に「二条里づくりの市」を継続開催する。 ・加えて、11月から灯油の移動販売が開始、同月よりこのマーケットにあわせた乗合タクシーの運行も開始し、買い物支援体制づくりの一步となった。	くらし 部会
8月4日 ～5日	つ～キャン2023（親子キャンプ）地区外の親子も参加 ・「つ～キャン2023」の大人スタッフの事前会議を行い子ども同士の絆づくり、やりたいことを自分たちで考え、	くらし 部会

	挑戦できる力を育む。を目的に二条公民館とほたる会館でキャンプや川あそびの実施とその見守りをした。	つろうて 班
8月12日	家族写真会、(旧) 西南中学デジタルマッピング ・留学生がカメラマンとなり家族写真の撮影会をした ・西南中学卒業生が集い、思い出のデジタル化に向けた取り組みの場を作った。	ひと部会
10月4日	どんぐりの森づくり 安田小学校来所 ・生徒がどんぐりの苗を植樹し自然と環境保全を学んだ。	ひと部会
10月28日	二条ふれあい祭りの開催 ・二条里づくりの会は「懐かしの駄菓子横丁」を出店した。	事務局
11月5日	INAKA ライド 2023 エイドステーション設営 ・桂平小学校内に設営し出場選手を迎え、飲物や補食の提供をして大会運営のサポートと盛り上げができた。	ひと部会 他
11月27日	クマから身を守る研修会 桂平小学校と校外にて ・クマの特性や実際に出会ったときの対処法と柿の実を事前に採ることでクマを寄せ付けない予防法を学ぶ	くらし 部会
12月18日 12月25日	二条ふるさと便（お歳暮お正月セット）の受注と発送 ・関東方面などにも発送し、地区産物のアピールをした。	なりわい 部会



のぞみの里バスツアー



定期総会



「つどい」に視察受入



移動販売



種地区とグランドゴルフ



西南中学デジタル化事業



クマから身を守る研修会



INAKA ライド



ふるさと便発送

4. 残された課題と今後の提案

高齢者・生活支援	1.デマンド型送迎サービスで医療と買い物等のニーズに合わせた拡充や運行範囲の拡大
	2.自治組織で行える弁当・給配食サービス
	3.高齢者サロン等の交流活動の推進と展開
	4.介護予防活動
	5.草刈りや除雪等の支援
	6.家事支援（清掃や庭木の剪定等）
子育て支援	7.保育サービス（学童保育など二次保育の充実）
	8.子どもの学習支援
	9.子ども食堂
地域産業の振興	10.農業の担い手、農地の一元化管理（維持管理）
	11.特産品の新商品開発・企画や製造販売
	12.観光施設の運営や観光体験
情報発信	13.様々なコンテンツ（アナログデジタル問わず）を用いて告知や地域の活動や魅力の発信の継続と定着

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

本年度初めて地域魅力化応援隊員という職務に就いた。当初は、地区外出身なので慣れることに精一杯で与えられた仕事や求められることの職務遂行をしていけるかの不安もあった。しかし、公民館職員や地域の方々の様々な助けやアドバイスのおかげでなんとか年度を守り切り充実した1年であったと振り返る。次年度は、さらに地域の方々から信頼される存在になっていきたいと思っている。

また、毎月開催される地域づくり担当者会議では、いろいろな地区の担当者さんと交流ができる機会もありとても楽しく地域づくりの学びの場となった。

私的なところでは、居住する高津地区において登校時の見守りが引き続きできたことや同地区民生児童委員にも抜擢され、様々な活動や経験したことが地域魅力化応援隊員の仕事に大いに役立てられて自信にもなったとともに自身のキャリア形成につながったと思っている。

美濃地区

地域魅力化応援隊員 氏名 大庭 真弓

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

美濃地区

2. 配置年月

令和4年1月から

3. 活動の概要

① 活動の内容

【地域の魅力化に向けた取組(★地域自治組織2部会、☆地域内協力団体)】

★結い学び部会

- ・自治組織だより
- ・地区外へ広報紙郵送
- ・歴史の掘り起こしと継承事業
- ・健康教室 歴史ウォーキング
- ・どんど焼き…子供への案内(年賀状)
- ・スマホ勉強会



★てごすけ部会

- ・外出支援事業「てごすけ号」の運行支援
- ・草刈機械等の貸出
- ・おたすけ隊事業(軽作業、草刈)
- ・ひまわり畑播種
- ・菜の花畑播種

☆ぼんぼりの会

- ・〈夏〉ぼんぼりロード 〈冬〉イルミネーション



② 活動の成果及び効果

- 地区内の多世代交流を目的とした催しが開かれた。
- 歴史をテーマに一貫した取組が継続出来ている。
- 環境整備することで地域の景観を保全している。
- 地区外にも PR し人を呼び込むことで地域の活性化に繋げていく

4. 残された課題と今後の提案

地域の高齢者や、若者、子供たちに呼びかけをして、安心、安全な住み良い暮らしを維持するためのまちづくりを、みんなで考えていきたいと思います。地区全体で、地域のあるべき姿や課題等を話し合い、一緒になって、地域活動をしていくことが必要だと感じています。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員に任用され、いま丸2年となりました。まだまだわからないことが沢山あり、中々スムーズに仕事が出来ない状況です。少しずつでも地域の皆さんとの親交を深めていき、力を貸していただきながら、地域自治組織「はつらつ美濃の里」を発展させていけたらと思います。



地域魅力化応援隊員 氏名 宮内 英之

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

小野公民館

2. 配置年月

平成30年4月

3. 活動の概要

(1) 活動の内容

小野地区においては、平成29年3月に「夢あふれる小野の里」を設立して以来6年目を迎え、応援隊員としての活動は、同組織の活動方針に沿って事務的な支援を行った。

事業計画については、令和4年度から新たに「第2次地域づくり計画」へと移行し、2年目の活動を展開した。これまで同様に“地域づくりと人づくり”、そして“3つの部会の取組み”において事業を実施している。

① 地域づくりと人づくり

人材育成を進めていくために、各種研修会等への参加について積極的に取り組みをすすめてきた。

また、毎年活動計画に掲げている「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口」への参加について、今年も2月中旬に開催される予定であり、全国各地団体からの先進的な事例発表を拝聴する等、積極的に参加したいと考えている。

② 各部の取組み

【防災環境部】

防災環境部においては、以下の項目について主体的に取り組みを行った。

■ 「子ども見守り活動」の支援

戸田小学校児童の登下校時における見守り活動を主体的な活動内容として、令和2年度から活動を開始しており、今年度も継続実施した。

年々児童数が減少する中で、一方では「Iターン者の定住」により複数の児童が増えている地域もある。

対応された隊員から、「子どもたちに声をかけると、逆に活気あふれる大きな声で返事が返ってきて、毎日パワーをもらっている!」、「この活動に携わってよかった、若返った気持ちになる!」等々、嬉しい報告をいただいた。



■ 「草刈り隊活動」の支援

令和2年度から地域の「お助け隊事業」として実施している「小野地区草刈り隊」について、今年度も継続して事業を実施した。この事業は、家周辺の草刈り等の環境整備ができなくなり困っている世帯を対象にして、依頼者の要望に沿って作業を行っている。



「令和4年度益田市まちづくり活動特別補助金」を活用して「刈払い機」等の機材を導入し、本格的な稼働へと移行した。昨年度までは年間13件程度の作業実績であったが、今年度は昨年を大幅に上回る24件の作業を実施した。

また、本会所有の機器を使用して本格稼働へ移行したことにより、下記業務が新たに応援隊員（事務局）の任務分担となり、作業実施時期（シーズン）においては相当繁忙な状態であった。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| * 作業従事者との作業日時の設定 | * 作業従事者の傷害保険加入手続き |
| * 作業依頼者への料金請求事務 | * 作業従事者への賃金支払い事務 |
| * 刈払い機「替刃」の管理（研磨） | * 刈払い機等機器の手入れ |
| * 機器使用燃料（混合油）購入準備 | |

今後において、利用者の要望に応えられるよう更なる業務体制の充実を図ってきたい。

■ 若者の活動支援

若者の交流の場「しゃべり場」を定期的で開催し、活動について協議を行った。主な活動としては、ここ数年毎年企画している「灯りをともすイベント」を実施した。

今年も昨年同様にアルミ缶を使用した手作りの「缶灯籠」を作成し、12月初旬に小野公民館において、「灯りをともすイベント 明るく灯そうキャンドルフェスタ」を開催した。

地区内外から多くの方が来場され、地域のサロン団体が設置されたイルミネーションに合わせて、「夕暮れのともしび」を観賞された。



■ 鳥獣被害対策の推進

令和4年度から「第2次地域づくり計画」の活動として取組んでいる当該事業について、前年度に地区内全世帯を対象に実施した「鳥獣被害アンケート調査」の結果に基づき、対応策を協議した。

地区内での被害状況は、「イノシシ」による被害が圧倒的に多く、続いて「サル」による被害が多く発生している。このような状況を踏まえ、下記の取組みを実施した。

(イノシシ対策)

「イノシシ」を捕獲駆除するため、「大型獣用捕獲檻」を3基購入した。地元猟友会と連携して管理を行うこととしている。

(サル対策)

「サル」を捕獲する対策は安易にできないため、人間の住む領域から「サル」を追い払う取組みを実施することとした。地区内から担当者を選任して益田市が実施する「煙火保安講習」を受講し、各地区で打ち上げができる体制を構築した。

【健康福祉部】

健康福祉部においては、以下の項目について主体的に取組みを行った。

■ 地区民の健康増進に向けた取組み



令和3年度「益田市まちづくり活動特別補助金事業」を活用し、全自動血圧計やデジタル体重計等の健康機器を導入した。この機器を有効利用するために、小野公民館内の片隅に健康チェックコーナー」を開設し、日々来館された方が利用している。

また、前年度から公民館事業の一環として「健康ウォーキング教室」を新設し、毎月定例日に多数の有志者が参加して、機器の有効活用に努めている。

■ 「認知症サポート」の取組み

「第2次地域づくり計画」の活動項目として新たに取り組んでいる当該事業について、高齢者支援の学習を行うこととして「認知症サポーター養成講座」を企画し、開催に向けて市担当課等の関係機関と協議を行った。



さらに、小浜自治会をモデル地域として第1回目となる「研修会」を開催した。個人民家を会場として提供していただき、地区住民12名、市及び関係団体職員を含め全体で20名が出席し、寸劇を行う等して楽しく学べる研修会であった。

今後において、地域を替えて研修会を継続実施していく予定である。

【生涯学習産業部】

生涯学習・産業部においては、以下の項目について主体的に取組みを行った。

■ 「おの産直市」の実施

今年度の「おの産直市」は、子どもたちと地区民が交流を図ることを目的として、「スポーツ交流会」と同日に実施する予定で企画したが、開催日前日に小野中学校内にインフルエンザが蔓延したため、急遽「スポーツ交流会」は中止し、「おの産直市」のみ開催した。

当日は暖かい好天に恵まれ地区内外より多くの方が来場し、販売開始前から行列になる程の賑わいであった。また、地元小学校児童が「手作りクッキー」を販売し、開始早々完売となる盛況ぶりであり、その他出品された数多くの産物が完売となった。

今後においては、コロナ禍による感染防止対策も緩和されている状況を踏まえ、実施回数増を含めてさらに充実した内容を検討していきたい。



(2) 活動の成果及び効果

「第2次地域づくり計画」に移行して2年目を迎え、専門部会の活動としては一定程度評価できる内容もあるが、全体的には多くの課題が残っており、具体的な取組みとしてはまだまだ進展していない状況である。

今年度の各専門部会の活動に対する成果として、次の事業を推進することができた。

- ① 「子ども見守り隊」の活動を継続実施した。
- ② 「草刈り隊」の活動を試験稼働から本格稼働へ移行した。
- ③ 「鳥獣被害対策」に係る具体的な取組みに着手した。
- ④ 「認知症サポート」の具体的な活動に着手した。
- ⑤ 「おの産直市」を開催した。

上記5点の内容が実施できた活動項目である。それぞれの項目において多々課題は残されているが、更なる内容の充実に向けて協議・検討を進めていきたい。

4. 残された課題と今後の提案

令和4年度から、「第2次地域づくり計画」の事業方針に沿って、取組みを進めており、早2年目を終えようとしている。

各専門部会においては、具体的事業に着手できている「項目」もあるが、全体的には進展していない「項目」が多く残されている。これらを解決するために役員をはじめ各部会員との連携を密にし、さらに地区民に状況を分かりやすく伝達して、「地域ぐるみの活動」に取り組んでいきたいと考えている。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

ここ数年間「新型コロナウイルス」の影響を受けて、計画通りの活動ができない状況であったが、今年度においては、「コロナ対策」も第5類に定義される等一定程度緩和されてきた。しかしながら今年度の活動を総括すると、「会議、イベント等」すべての取組みが実施回数も少なく、コロナ禍前の状態に戻り切っていないような感じがした。

今後「話し合いの場」を大事にし、部会主流による事業展開に向けた取組みを構築していきたいと考えている。

地域魅力化応援隊員 氏名 青戸 美奈子

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

東仙道公民館

2. 配置年月

平成28年4月

3. 活動の概要

① 活動の内容

- ・東仙道ちいき協議会全体

東仙道花園ライトアップ事業、東仙道プロモーション事業、神寶山八幡宮のPR

- ・互助部会

東仙道お助け隊事業 お買い物バスツアー事業

- ・地域活性化部会

四ッ山歴史ウォーキング、ふるさとカレンダー事業、東仙道 桜を見る会、運動会、文化祭

- ・福祉健康部会

グラウンド・ゴルフ大会、東仙道寺子屋事業

※全体会を年数回、部会を随時開催

② 活動の成果及び効果

- ・東仙道ちいき協議会全体

今年度は4年ぶりに東仙道寺子屋事業、地区民参加の運動会を開催することができ、予定していた全ての事業を行う事が出来た。

令和2年度のまちづくり活動特別補助金を活用し開始した「東仙道花園ライトアップ事業」では、今年度も引き続きひだまりパークみとの桜、三番道路桜のライトアップ（3月）、仙道バス停もみじライトアップ（10月）、神寶山八幡宮鳥居ライトアップ（11月）を行なったが、彼岸花（9月）のみ育成状況が悪く中止した。

神寶山八幡宮についても昨年度同様、のぼり旗を国道から八幡宮への入り口、鳥居横に設置したほか、「四ッ山歴史ウォーキング」で、八幡宮だけでなく東仙道にまつわる歴史パネルを展示するなど、日本遺産の認知度を上げるとともに地域にある構成文化財に関心を持ってもらおうとPR活動をした。

- ・互助部会

「東仙道お助け隊」では、草刈りや木の伐採等の依頼が33件あり、のべ60名の隊員が作業にあたった。

困ったときに気軽に声をかけてもらい、お互いに生活を支えられるよう息

の長い活動が続けたい。

また、(株)キヌヤさんの協力を得て行なっている「お買い物バスツアー」も、通常通り行う事ができた。

免許返納等により利用者も増え、地域での認知度もあがっているので必要な時に気軽に参加してもらえよう継続していきたい。

また、通過する他地区から利用したい旨の問い合わせもあり今後検討予定である。

・地域活性化部会

ひだまりパークみとは桜の名所として地区内外からたくさんの人が訪れるようになったので地域全体でさらに盛り上げていきたい。

「四ッ山歴史ウォーキング」は地区内外から72名の参加があり、少しずつではあるが参加者が増加している。

「運動会」は地域競技2種目に減り、午前開催ではあったが4年ぶりに地区民参加で開催となった。

8年目となる「ふるさとカレンダー事業」では、「あなたの知らない東仙道」をテーマに、広く知られていない場所や東仙道にまつわる記念碑などを中心に作成した。

出来上がったカレンダーは、広報4月号と一緒に折り込み、全戸配布する予定である。

例年多くの方から「地区外に住む親戚や友人にあげたい」との声もいただくので、今回のカレンダーも地区内外へふるさとの魅力を発信するとともに、様々な世代間での会話のきっかけになればと思う。

「文化祭」も4年ぶりにコロナ対策をしながらほぼ例年通りに開催することができ、久しぶりにたくさんの人で賑わった。

・福祉健康部会

放課後に小学校の空き教室を利用し、地域の方に見守っていただきながら宿題を済ませて帰るという「東仙道寺子屋事業」が6年目、4年ぶりに開催することができた。

学校の方針が家庭学習を重点に置くということもあり週1回の開催となったので今後、開催方法など内容も検討していかななくてはならない。

6月の「グラウンド・ゴルフ大会」は感染予防対策をしたうえで実施することができ、56名の参加があった。

4. 残された課題と今後の提案

・東仙道ちいき協議会全体

地域の代表11名が部会員として各部会に所属し、会議を進めているが、事業の運営となると公民館運営委員や各自治会にお願いしないと事業が出来ない状態である。今後も協力を仰ぎつつ、ちいき協議会の体制、部会員構成、事業の運営方法についても引き続き協議が必要である。

- ・互助部会

「東仙道お助け隊」について、草刈りは繁忙期が限定されているので、隊員の負担が大きい。もう少し負担を分散させられるよう、引き続き隊員の確保に力を入れたい。

また、小さな困りごとに対応できるような体制づくりについて協議していき

たい。

「お買い物バスツアー」については、移動スーパーとくし丸が周回することになり、バスツアー参加も減るのではと思われたが、みんなでわいわい行く大きいスーパーでの買い物はそれとは別であるとの声もあり、バスツアー参加者の減少とはなっていない。

今後は買い物支援以外の部分で交通対策が求められるのではと感

- ・地域活性化部会

「ふるさとカレンダー」については、写真提供者が少なく、選定も地域活性化部会員のみで行うため、狭い範囲での作成となってしまうのが課題である。

この取り組みは地域のみなさんから毎年期待の声が寄せられている。より魅力的な内容となるよう、テーマや写真選定方法等について、引き続き協議が必要である。

- ・福祉健康部会

「東仙道寺子屋」について、学校の方針が家庭学習を重点に置くということが打ち出され、空き教室を使って学校で宿題を終わらせて帰るという事業の内容から見直しが必要となっているが今年度はコロナ禍前同様の内容で週1回開催となった。

ボランティアさんの高齢化も進む中、長期休業中の開催などを含め、継続可能な寺子屋事業の広がり等について協議していき

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は縮小等あったものの、計画していた全ての事業を行う事ができた。

「寺子屋」や「運動会」を4年ぶりに開催することができ、遠ざかってい小学生との距離も縮まったように感じる。

この他にも公民館事業や小学校の授業などで地域の方が小学生と一緒に活動する場面が多くなり、このような少しの時間の積み重ねで顔見知りになることが地域全体での子どもの見守り等に繋がるのではないかと思う。

今後も数少ない子どもたちが大人になった時に「あの時あのおばちゃんとあんな活動をしたな」等思い出に地域の方々が出てくるような活動を続けていきたい。

地域魅力化応援隊員 氏名 檜谷 望

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

匹見上地区

2. 配置年月

令和3年4月1日

3. 活動の概要

①活動の内容

□自治組織のサポート

◆地域自治組織事務局

●組織運営に関して-----

- ・第4回通常総会資料作成や当日の収支決算予算報告
- ・役員、委員会資料作成・議事録作成、会計処理
- ・カフェSEIRYU（まちづくりプラン改定会議）事前会議の資料作成
- ・カフェ SEIRYU（まちづくりプラン改定会議）事前準備、受付、記録撮影等対応
- ・匹見町産業文化祭で活動報告展示の活動報告作成

●魅力発信に関して-----

- ・イベントに向けた会議資料作成や当日の受付対応等
星空をたのしむ会 inHIKIMI、おとなの遠足
- ・便り作成（第15号から第20号）とSNSアップ

●支 援に関して-----

- ・イベントに向けた会議資料作成や当日の受付対応等
- ・支え合いマップに関する資料、使用する資料の作成
当日の意見交換会、記録対応、だしの素販売対応

●環境保全に関して-----

- ・動物駆逐用煙火保安講習会受講者受講補助交付対応
- ・猟友会への箱罟貸出対応と煙火花火の販売対応

□会議、研修会等出席

◆会議

- 地域づくり担当国会議参加…視察…江の川鐵道
- 第2層協議体（支え合い協議体）へ出席

◆研修会

- 人権教育公民館等関係者研修
- 公民館運営委員会と匹見上清流の郷合同視察研修
（益田市立地域活性化交流館、益田市立宿泊交流センター）
- 令和5年度 生活支援体制整備事業研修会＜1回目、2回目＞
島根大学人間科学部人間科学科 加川 充浩 准教授
- 第3回 自治組織座談会



②活動の成果及び効果

限られた人数ではあったが委員全員で準備をし、総会は設立以来久しぶりの対面での開催を決め、全ての議案が可決された。

カフェSEIRYU（まちづくりプラン改定会議）では、豊かな暮らしラボラトリーの協力をいただき、次のプラン改定に向けて様々な意見を聞くことができた。

イベント（星空を楽しむ会 inHIKIMI：参加者23名、おとなの遠足：参加者10名、匹見上清流の郷健康教室：参加者17名）も委員全員で協力し企画・運営を行い、記念品のプレゼントや健康教室参加者には匹見峡温泉施設利用券のプレゼントなど参加者に喜んでもらえた。

研修会への参加で思ったことは、すべての研修において「楽しくないと続かない」「仕事ではないのだから」という言葉が出た。協力を得られなければ地域づくりはできない。言葉の重みをしっかり理解して今後の自治組織支援の参考に活かしたい。

4. 残された課題と今後の提案

限られた人数で何ができるのか…。まちづくりプラン改定の年で、活動の固定化と委員の疲弊に気づかされた。楽しく活動を行っていることを発信し、“委員＝負担”という壁を壊し、1人でも多くの委員や活動を手伝ってくれる仲間を増やしたい。

各種団体との話し合いが必要不可欠であると思った。環境保全で箱罟を作ったが箱罟設置に関しては匹見上清流の郷では免許がなく設置できないためトラブルの原因になりかねない。早急に話し合いの場を設けてスムーズに貸し出しができるようにしたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員3年目、自分なりに目標は達成できたと思う。令和6年度も地域のために尽力する。



地域魅力化応援隊員 氏名 寺西 泰一

令和5年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

匹見下地区

2. 配置年月

令和5年4月～

3. 活動の概要

活動の内容・活動の成果及び効果

- ・グラウンドゴルフ大会（ナイター5回 昼間1回）

延べ109人参加 1大会平均18.1人参加

- ・いきいき百歳体操（澄川・広瀬・石谷に加えて1月より持三郎地区でも開催）

延べ324人参加 1回平均7.9人参加

※百歳体操後に、スポーツ吹き矢、モルック、玉入れ、茶話会などを開催

- ・買い物支援…生協しまねと連携した買い物支援を協議・進行中。

生協の販売ルート外の地区のために見守り活動の一環として行う予定。

新年度、4月からの稼働を目指す

- ・動画の撮影並びに編集、視聴

地域内の行事をビデオ撮影し、編集の上、地域の皆様と一緒に視聴。

アーカイブ化し、地域の記録として動画保存。

また、匹見エリア、益田市エリアまで活動範囲を広げさせていただき、記録ビデオとして残していただけるのはありがたいことです。

4. 残された課題と今後の提案

- ・移動支援、買い物支援、担い手不足など待ったなし。地域住民の中からでも“消滅”という言葉が聞こえてくるほど。

- ・地域魅力化応援隊員として、匹見下だけでなく、匹見地区の応援隊として、3地区連携した「匹見振興策」を講じていきたい。

5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

- ・地域の方々とのふれあいが何よりも大切だと思っております。積極的に顔を合わせ、話しかける、お話を聞く。そういったことが自然にできるよう心掛けています。

○地域魅力化応援隊員事業実施要綱

平成26年4月1日

益田市告示第77号

改正 平成27年6月12日告示第150号

平成29年3月13日告示第47号

平成31年3月29日告示第90号

令和元年5月1日告示第1号

令和2年3月31日告示第96号

(趣旨)

第1条 この要綱は、公民館等を中心とした区域（以下「地区」という。）において、人口減少、少子高齢化等により集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域運営を主体的に行う新たなコミュニティの創設及び地域の魅力の創造（以下これらを「地域魅力化」という。）に向けて、地区における当該コミュニティの設立を支援し、並びに地域住民が抱える地域課題の整理及び情報の共有化による住民自治機能の充実や機能強化を支援するため市が設置する地域魅力化応援隊員（以下「応援隊員」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(配置)

第2条 市長は、地域魅力化に向けて次の各号のいずれかに該当する団体の存する地区の公民館に応援隊員を配置することができる。

(1) 益田市地域自治組織設立支援事業補助金交付要綱（平成29年益田市告示第46号）の規定による補助金の交付対象となる団体

(2) 益田市地域自治組織の設立認定に関する要綱（平成27年益田市告示第11号）第5条第2項の規定による設立認定を受けた地域自治組織（以下「認定地域自治組織」という。）

2 前項の規定にかかわらず、益田市地域マネージャー等雇用交付金交付要綱（令和2年益田市告示第91号）の規定による益田市地域マネージャー等雇用交付金の交付を申請する団体の存する地区の公民館には、応援隊員を配置しない。

(任命)

第3条 市長は、地域コミュニティの構築に意欲をもって取り組む者、地域の実情に精通した者又は地域の活性化の推進に関して知見を有する者を選考し、応援隊員として任命する。

(身分)

第4条 応援隊員の身分は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第22条の2第1項第1号に規定する会計年度任用職員とする。

(任期)

第5条 応援隊員の任期は、その任命の日から同日の属する年度の末日までとする。

(所掌事務)

第6条 応援隊員は、配置される地区における第2条第1項各号に掲げる事業を実施する団体又は認定地域自治組織の活動の支援に関する事務を所掌する。

(報告)

第7条 市長は、応援隊員に対し、別に定めるところにより月ごとの業務の内容について報告を求めるものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成26年4月1日から施行する。

(有効期限)

2 この告示は、令和5年3月31日限り、その効力を失う。

附 則 (平成27年6月12日告示第150号)

この告示は、平成27年6月12日から施行する。

附 則 (平成29年3月13日告示第47号)

この告示は、平成29年4月1日から施行する。ただし、附則第2項の改正規定は、平成29年3月13日から施行する。

附 則 (平成31年3月29日告示第90号)

この告示は、平成31年4月1日から施行する。

附 則 (令和元年5月1日告示第1号) 抄

(施行期日)

1 この告示は、令和元年5月1日から施行する。

附 則 (令和2年3月31日告示第96号)

(施行期日)

1 この告示は、令和2年4月1日から施行する。ただし、附則第2項の改正規定は、令和2年3月31日から施行する。

(経過措置)

2 この告示による改正後の地域魅力化応援隊員事業実施要綱の規定は、令和2年4月1日以後に任命する応援隊員について適用する。

発 行 令和6年3月

発行元 益田市政策企画局連携のまちづくり推進課

〒698-8650 島根県益田市常盤町1番1号

TEL 0856-31-0600

FAX 0856-23-7708

E-Mail : renkei@city.masuda.lg.jp